馬驍水墨画会報

発行所　馬驍水墨画会本部
〒一七〇東京都豊島区東池袋五ー三九ー一六グランドメゾン東池袋一〇二
〇三(三九八七)七〇八〇
TEL

NO,3　1995,1,1

謹賀新年

馬　驍

会員の皆様には穏やかな新春を迎えられたことと思います。

昨年は、帰国してより十五年目を迎えました。その間に、芸術活動一筋に「馬驍水墨画展示館」「馬驍水墨画会館」を設立し、夢と目標を実現することが出来ました。もう一つの目標が中国で個展を開くことで、永年の夢が実現し、中国上海美術館主催の名誉ある形で「在日芸術活動十五周年記念展」が行われました。

その成功を祝い、母の故郷、静岡で帰国展を開催したことは、会員の皆様方のご支援によるものであり、深く感謝しております。今年もまた新たな気持ちで創作活動に邁進し、より豊かな芸術への域を達成したいと思います。会員の皆様も今年は水墨画発祥の地、中国で、十一月一日より五日まで、上海美術館で「馬驍水墨画会秀作展」を行いますので、昨年以上に心を込めて、独創的な作品を描いて下さい。と馬驍先生より新年のご挨拶を頂きました。

中国上海美術館主催
《在日芸術活動十五周年》
馬驍水墨画展

1994,4,2〜4,6

【上海で念願の里帰り個展】

馬驍先生が日本へ永住帰国したのが十五年前の四月、その記念すべき日に上海で水墨画展が開かれました。帰国当時の苦節、十五年間の蓄積された芸術活動は、先生のたゆまぬ努力と研鑽により馬驍芸術を作り上げることが出来ました。雲や霧、波や瀑布を神秘的に表現し、雄大で荘厳な水墨画は中国の伝統の技法と、日本の心、日本特有の繊細な描法を融合した馬驍先生の芸術性の高い作品を一見して、上海人民政府文化局局長は即座に、中国政府の主催事業とすると強い要請で、上海美術館で開催されました。此ような光栄ある形で馬驍先生の永年の夢が実現し、代表作四十点と、父親の祖国で過ごした半生を記録した写真が展示されました。

【上海美術館展覧会開幕式】

上海人民政府の軍楽隊が美術館前広場で大合奏ではじまり、軍楽隊も二階のロビーに移動整列して、ご来賓と美術家、その、他先生の友人知人の方々で溢れんばかりの会場で、上海市人民政府文化局長、及び副局長、上海人民政府美術部部長、並び幹部の皆様、上海美術家協会会長、上海著名画家、著名評論家、北京より中国文化省美術家協会書記長、中国美術家協会『美術』の月刊編集長、北京人民美術出版社『中国芸術』誌編集長、中国美術学院院長ほか多数の方々の参列の中で、お祝辞を頂き先生のご挨拶、後援団の感謝の言葉、総て大長恵利さんが通訳されました。次いでテープカットが行われ、三階の展示会場へ、広い会場は人々で埋まり口々に絶賛しました。

【上海美術館展の祝賀会】

新錦江大酒店の白玉蘭廳にて、開幕式に出席された来賓の方々と北京から、恩師や友人の方々と盛大に行われました。皆様のお祝辞の中で、日本、パリ、ニューヨーク、ロサンゼルス、シアトル等で個展を行った、成功を称え、先生の人柄や、人間関係の良さを伺うことが出来ました。先生のご挨拶の中に、王荻地先生のお父様で先生の恩師、今は亡き王式鄭先生が、「画家になさい、良い絵が描きたければ、良い人間になりなにさい一と、残された恩師であり、義父の言葉の通りの道を選び、芸術への探求心が現在の馬驍芸術を築き上げ、師のご恩に報いる事が出来ました。と喜びと感動にあふれた言葉に、後援団の皆様も胸が一杯になり、先生と共に感激致しました。この上海展が大成功であったのは、馬驍先生にとって、故郷に錦を飾る事が出来ました。

上海で「馬驍水墨画展」を開催するにあたり、上海人民政府、上海文化局、上海美術館の方々のの多大なるご尽力によるものであり、国際都市上海で展覧会を開催した事は日中の友好と国際文化交流を益々深める上で大きな意義がありました。

『静岡』中国上海帰国展
馬驍水墨画展
《在日芸術活動十五周年記念》

八月三十一日〜九月四日まで…静岡市民文化会館…

馬驍先生が日本へ帰国してより、中国水墨画の技法の伝授と振興のために静岡で水墨画の教室を開きそれ以来、先生の創作活動が精力的に続けられました。「静岡は芸術活動の出発点で、静岡県、静岡市の日中友好団体及び静岡の方々より多くの暖かいご支援を頂きましたので、中国上海展で成功を収めての帰国にあたり、皆様方に、報告と感謝の意を表すことが目的です」と、言われた馬驍先生の言葉に、「在日芸術活動十五周年記念上海帰国展」を、静岡で開催する計画を立てました。静岡県日中友好協会会長の諏訪卓三先生、常葉学園理事長で参議院議員の木宮和彦先生に実行委員長をお願いしました処、こころよくお引き受け頂き、実行委員会を結成しました。

【静岡帰国展開幕式】

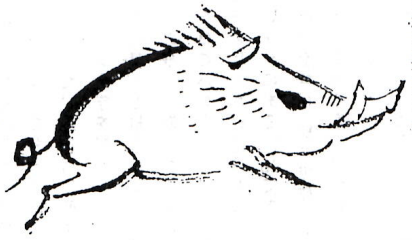
実行委員長の諏訪先生のご挨拶に、静岡「馬驍水墨画展」のお祝いと、各関係機関の方々の、ご後援、ご尽力により静岡に於て開催出来たことの感謝の言葉が述べられ、馬驍先生の芸術が展覧会を通して、日中両国の相互理解に役立つのみならず世界平和に貢献することが出来ると思う、益々のご健勝を祈り、後世に残る素晴らしい数多くの作品を成作される事を祈念致します。

次いで東京国立文化財研究所美術部長の鶴田武良様よりお祝いの言葉を頂きました。テープカットは、諏訪先生、鶴田武良様、NHK静岡放送局長の山本肇様、日展会友の河西賢太郎様、馬驍先生により行われました。展覧会場には、これまでの芸術活動十五周年間の代表作七十点、上海美術館主催の展覧会に出品した作品及び写真、多数の水墨画の著書、出版物等が展示されました。会期中千八百人程入場し、先生の十五年の偉大なる業績に驚嘆していました。

【静岡帰国展祝賀会】

グランドホテル中島屋にてご来賓、先生のご家族、静岡の元教室生、知人友人等と現在の馬驍水墨画会の会員は、九州の福岡、敦賀、大阪、茨城、千葉、埼玉、神奈川、静岡県の各地より百三十名、お祝いにお集まり頂きました。力士の智ノ花ご夫妻も出席され、来賓の方々のお祝辞と、一馬驍先生一のご挨拶に、二つの祖国のはざまに生きる半生と、多くの皆様方静岡の方々のご支援に対し感謝され、特に画家の道を指示してくれた、新中国の店主の今は亡き久保田洋さんは、先生を特に支援された方で、現在の先生の画家としての成功を、一番喜んでくれる人ですと感無量の気持ちでお話しされました。

馬驍ご夫妻に花束と記念品の贈呈を行い、全国の馬驍水墨画会の支部長、実行委員の静岡支部会員を紹介し、NHK名古屋放送局の吉田広様の司会で楽しく、お祝いの宴か終わりました。翌日は富士方面のスケッチ旅行です。全国の会員の皆様がお祝いの為に快く、ご賛同下さいましたので盛大な祝賀会を行うことが出来ました。



【静岡県日中友好協会会長の諏訪卓三先生のお手紙より】

過般の馬驍水墨画展は、会員の皆様の御骨折りで大成功をおさめることができ何よりと存じました。　またアメリカでの画展は日中米の交流に大きな貢献をなされた御様子、嬉しい限りです皆様の御熱意と御努力に心から敬意を表します。今後ともいよいよ素晴らしいお為事のほどお祈り申し上げます。

1994年度

日中水墨画交流展

馬驍水墨画会員秀作と在米著名中国画家作品展

〈アメリカ・ロサンゼルス〉

今年の日中水墨画交流展は在米中国美術協会の多大なるご協力により、アメリカ・ロサンゼルスの東方芸術センターで開催されました。この会場は一九九二年馬驍先生の個展が行われた会場で、本年の交流展も東方芸術センターのご助力によるものです。馬驍先生は、展覧会開催前に、在米中国美術家協会他、各関係機関、各新聞社、テレビ局にご挨拶されましたので十二日の「世界日報」には日中水墨画交流展の開幕の案内、参加した馬驍水墨画会員、代表団員の氏名が掲載され「僑報新聞」「華美時報」「国際日報」には、日中水墨画交流展の見出が大きく載せられ紙面をかなり占めています。十四日の「世界日報」十五日の「国際日報」「自由時報」十六日の「星島日報」「国際日報」「世界日報」の各社とも開幕式の賑わいや、世界著名画家の丁紹光、馬驍両先生の写真、会場の状況写真等、連日記事として大きく取り上げられたことはアメリカに於いて、東洋の水墨画「馬驍水墨画会」の美術交流展は画期的な出来毎として掲載されました。また最終日前日の二十一日の「華美時報」には、展覧会の催しを、六枚の写真に綴り新聞紙面の二分一を占めるスペースに掲載されました「日中交流展」が大盛会であったのは実行委員長の丁紹光先生、副委員長の馬驍先生、審査委員長の丁義元先生、米国中国美術家協会の先生方と、関係者の方々、静岡支部の杉山祥鳳さんのご協力によるものであり、あらためて感謝申し上げます。

『国際美術交流感謝状の贈呈』

開幕式会場には、世界著名画家、丁紹光先生、馬驍先生、王荻地先生の作品が中央メインの壁面に飾られ、馬驍水墨画会員二百八名の秀作を展示した会場は既に超満員の状態で、在米中国美術家協会会長、丁紹光先生、ロサンゼルスの市長のアントウノイキ様、書画鑑定家の謝稚柳先生、ロサンゼルス駐在中国総領事の周文重先生、上海美美術館副館長、丁義元先生、馬驍先生によりテープカットが行われ、次に米国中国美術家協会より日本馬驍水墨画会に、日中友好と国際美術交流の為、卓越した貢献を賞し、賞状が贈られました。またカリフォルニア州参議院議員会より、日本馬驍水墨画会の国際美術交流に多大なる貢献に対し感謝状を馬驍先生に贈呈され、会場からの拍手喝采に、参加した皆様の顔も感激し紅潮していました。

『彩香源にて交流会』

五時より丁紹光先生をはじめ、在米中国美術家協会会員、美術関係者の方々との交流パーティは、在米中国美術家協会副会長の官其格先生の乾杯、に始まり、馬驍先生のご挨拶「日中の友好と文化交流の促進、また東洋の芸術である水墨画を、西洋に紹介しお互いの文化を理解し、より深い交流が出来たことを嬉しく思います。」とのお話しに、これからは世界各国にも水墨画を通して東洋の文化の交流をしていく事が必要だと思いました。賑やかに和気あいあいとした雰囲気で世界著名画家と、アメリカで活躍中の大勢の先生方と楽しく、交流することが出来ました。

【丁紹光先生の豪邸訪問】

もう一つの旅の楽しみは、丁紹光先生のお宅を拝見出来たことです。ロサンゼルス郊外のビバリーヒルの高級住宅街の一画、二十五メートル程のプールに広い庭園、玄関を入ると真っ白な大理石のフロアーがずっと奥まで広がり、右側に図書室、書棚にはぎっしりと美術書、画集、歴史書物、辞典辞書など、古い美術品などがあり、真ん中に大テーブルで、縦横八十センチ四方の先生の画集を見せて頂く、左手の奥には洋酒がずらりと並んだホームバーがあり、洋酒がずらっと並べられている。

その奥に広々としたダイニングキッチン、その次の部屋は先生の下絵がおいてあるアトリエが整然としていました。

中庭の見える書斎で、お土産に頂いた先生の絵に一人一人にサインをして下さいました。この絵は私達の大切な宝物です。大理石の螺旋状の階段を二階へ広いロビーには中国の高級家具と言っても古い年代の物だとおもいます。ゲストルームも三十畳ほどの真ん中にベット、バスルームも同じぐらいの部屋の真ん中に薄いベージュ色のバス、サウナ、トレーニングルーム等どこを見ても映画のロケみたいで、ただボッーとしてしまいました一階のリビングで全員お茶を頂き、記念撮影に快く応じて下さいました。普通、ご自分の家の中を公開することはしない先生の家を訪問することが出来ましたのも馬驍先生のお陰と本当に感謝感激です。長い長い楽しい一日でした。

日中水墨画交流展とその前夜

〈矢谷　和雄〉

交流展の前夜、ニュー・オータニのホテル内にあるレストラン「千羽鶴」にてパーティが行われました。主催、馬驍先生官其格先生は司会を勤めて下さいました。来賓として米国中国美術家協会会長の丁紹光先生、国立上海美術館副館長の丁義元先生、在米中国画家の先生方、東方芸術センターの責任者の王雨盈さん、地元会員の方、又フラトン大学の先生方がご出席下さいました。

私は丁紹光先生や官其格先生の温かい心に触れて気持ちがとてもなごみました。

翌日、早朝よりフラトン大学にて官其格展を鑑賞し、その後、大学の先生方との交流が行われました。学部長さんは「官其格先生の絵には深い意味が託されており味わい深い作品です、又、人種を越え、国を越えての交流はすばらしい事であり、今後もこのような交流をもちたいと思います」と述べられました。

以前、馬驍先生が一日本の人達はもっと外国へ出かけて自分達の文化を発表する事が必要です」と言われた言葉を想い出しました。

心の温もりと自然の偉大さにふれて

〈小川　澄子〉

有意義な七日間を静かに振り返る時自分の見失っていたものへ立ち返れた思いである。自然の偉大さ、壮観さ造形美に息をのんだグランドキャニオン・モニュメントバレー、その自然の素晴らしい神秘的雰囲気の地に立たづみこれらの光景を目の当たりに見て自然の前にひれ伏したい気持ちと自分の存在のちっぽけさを思い知った。四日目午前中はフラトン大学を訪れ、官其格先生の個展を観賞「シルクロードの夢」と題した作品は女性の体の線の美しさと色合いにその思いが込められていて深い味合のある作品であった。

展示会場は、総て準備され在米中国美術家協会会員の、皆様方の力で整い、心の温もりが会場一杯にみなぎり、展示されていた作品にはそれぞれがロサンゼルス出品にかけた意気込みあふれる力作揃いでここアメリカの地ということさえ忘れさせるような雰囲気があった。人の往来と共に今後ますます文化の交流は盛んになって行くことだろう。文化の橋をかけて下さった馬驍、王両先生が、世界に向けられた眼差しで私達生徒をご指導下さり出品できましたことへの感謝と大版画家、丁紹光先生のお住まいビバリーヒルズに訪問できる様ご配慮いただき厚く御礼もうしあげたい。